



# 核のトロリー問題：一人の男が80億人を人質にしている方法

世界はガザで繰り広げられているジェノサイドを目撃しています。何万人もの死者が出ています。都市全体が平らにされています。衛星やスマートフォンの前で子供たちが飢えています。

それなのに、西側諸国は一つも介入していません。制裁ありません。武器禁輸ありません。レッドラインありません。ただ沈黙、遅延、そして二重基準があるだけです。

なぜか？それはイスラエルが**核武装した無法国家**だからです。**ベンヤミン・ネタニヤフが不安定**であり、権力を持つ者すべてがそれを知っているからです。閉ざされたドアの裏で、イスラエルは**サムソン・オプション**をちらつかせています——追い詰められた場合の世界的な壊滅の脅威です。そして、西側諸国の指導者たちが**恐れている**からです。

これが行動を起こさない本当の理由です。これが**核のトロリー問題**です——思考実験ではなく、現代の道徳的危機です。

## サムソン・オプション：イスラエルの核による恐喝

**サムソン・オプション**は、イスラエルの長年噂されてきた終末ドクトリンです：イスラエルが存亡の危機に瀕した場合、「**神殿を崩壊させる**」、つまり世界を道連れにします。

これはもはや抑止力ではありません。それは**外交的武器**です。

複数の情報機関の情報源（元イスラエルおよびアメリカの当局者によって引用された評価）によると、イスラエルは核保有国に期待される**安全措置を決して実施していません**：

- 文民の監督なし
- 「二つの鍵」の発射プロトコルなし
- 抑制の公開ドクトリンなし
- 外部検査やIAEAの監督なし

さらに悪いことに、イスラエルは1960年代に米国施設から数百キログラムの濃縮ウランを密かに盗むことで、その兵器庫の多くを取得しました。世界はこれを知っています。そして世界はそれを黙認しています。

なぜか？イスラエルはドクトリンにおいて明確に、外交においては暗黙的にその立場を明らかにしています：

**我々を止めれば、世界を終わらせるかもしれない。**

## ネタニヤフ：一人の男、一つのボタン

西側の情報機関は長年、ベンヤミン・ネタニヤフを心理的に不安定と評価してきました——パラノイア、復讐、自己保身に寄り憑かれた男です。

- 彼は現在汚職で起訴されています
- 公然のファシストや神権主義者で満ちた政府を率いています
- 繰り返し聖書の殲滅言語（例：アマレク）を用いています
- 彼は政治的および法的な生き残りのために戦っています

イスラエルの安全保障ドクトリンは彼を抑制しません。その核兵器庫には外部のチェックがありません。そしてその世界的な支援者には、彼が世界を焼き尽くすと決めた場合にどうなるかの計画がありません。

これは仮説ではありません。サムソン・オプションは実際の政策になりました——公式な宣言を通じてではなく、外交的脅威を通じてです。

裏では、ネタニヤフの政府はほぼ確実に西側指導者にこのメッセージを伝えています：

**「我々はあなたの制御を超えてエスカレートする。干渉するな。」**

そして彼らは彼を信じています。それが彼らがジェノサイドを容認する理由です。

## 核の脅威に守られたジェノサイド

西側の指導者たちは、イスラエルが戦争犯罪を犯していることを疑っていません。彼らはそれが比例して行動しているとは信じていません。彼らはジェノサイドの証拠が圧倒的であることを知っています。

しかし、彼らはまた、深刻な介入——制裁、武器供給の停止、ICCの執行——がネタニヤフを限界を超えて押しやる可能性があることも知っています。

彼はすでに： - ガザを平らにしました

- 子供たちを飢えさせました

- 難民キャンプ、病院、ジャーナリスト、援助車列を爆撃しました

- レバノン、シリア、イランへのエスカレーションを脅かしました

- ICJの命令を拒否し、ICCを軽蔑的に退けました

そしてその間、米国、ドイツ、英国、その他は道徳的回避以外何も提供していません。

なぜなら、彼らは道徳的崩壊よりも核の報復を恐れているからです。

これは宥和ではありません。これは惑星規模での人質取りです。

## 無法国家、グローバルなリスク

他のすべての核保有国とは異なり、イスラエルは闇の中で活動しています：

- 条約義務なし（NPTなし）
- 検査なし（IAEAなし）
- 安全措置なし（PALなし、二重制御なし）
- 監督なし（軍事管理、民事管理ではない）

- 法的ドクトリンなし（その公式政策は沈黙）

米国は、すべての欠点にもかかわらず、依然として以下のものを要求しています：

- 二人ルール
- 許可行動リンク（PAL）
- DEFCONプロトコル
- ペンタゴンと議会の監督

イスラエルにはこれらのどれもありません——そしてそれらを実施するよう強制されたこともありません。代わりに、**道徳的例外主義の神話と報復の恐怖**によって守られています。

それは**地球上で唯一の国家**であり、責任を問われることに対して核戦争を信頼できる形で脅かすことができ——そして信じられています。

## 宥和の再来——次のジェノサイドはすでに計画されています

西側の指導者たちはその脚本を知っています。

1930年代、ヨーロッパはヒトラーが止まると思っていました。ラインラントの後。オーストリアの後。チェコスロバキアの後。

そのたびに、彼らは**宥和**を選び、さらなる領土を与えれば戦争を回避できると願いました。

彼は決して止まりませんでした。

今日、同じ論理が働いています。西側の指導者たちは**ガザの破壊**を見て、それがそこで終わることを祈っています。彼らはそうならないことを知っています。そして今、**ネタニヤフはそれが終わらないことを確認しました**。

「私は歴史的かつ精神的な使命を感じています…

大イスラエルのビジョンに非常に強く結びついています。」

- **ベンヤミン・ネタニヤフ**、2025年8月12日、**The Times of Israel**

「大イスラエル」は詩的な言葉ではありません。それはガザ、ヨルダン川西岸、そして**ヨルダン、エジプト、シリア、レバノン**の一部を含む土地を明確に指します。これは推測ではありません。それは**イデオロギー的ドクトリン**です——ネタニヤフが**ジェノサイド戦争**を遂行しながら公然と肯定しているものです。

1930年代と同じように、西側の指導者たちは野心が止まると装っています。それは止まりません。

## フィクションによる恐怖：なぜ西側はレバーを引けないのか

西側の指導者たちは恐れています——しかし、必ずしも現実を恐れているわけではありません。彼らは**映画で見てきたもの**を恐れています。

何十年もの間、**どんな核の交換も完全な惑星の壊滅を引き起こす**という戦略的正統派が信じられてきました。この信念は、**冷戦ドクトリン**に根ざし、**WarGames**（1983年）のような映画で反響しています。そこでは一つの発射が世界的な熱核戦争につながります。

しかし、もはや世界はそのように機能しません——そして**西側の情報機関はそれを知っています**。

閉ざされたドアの裏では、イスラエルは多くの防衛アナリストによって**無法なアクター**と見なされています——その核使用は**限定的、局地的、戦術的**のものであり、グローバルな終末論的ではない可能性が高いです。

彼らはまた、**放射性降下物**を恐れています——**On the Beach**（1959年）のような映画から引き出されたイメージで、一つの核交換が地球上の生命の絶滅につながります。

しかし、繰り返しになりますが、この恐怖は**非常に誇張されています**。

**複数の限定的な核攻撃**でさえ、**チェルノブイリ**が引き起こしたグローバルな放射線レベルに近いものは放出しません。

これは戦略ではありません。これは**非合理的な抑止劇場**であり、映画的な条件付けを通じて内面化され——核の無法国家によって利用されています。

## 退行：文明から恐怖へ

その根底にある世界の麻痺は政治的なものだけではありません。それは**心理的**です。

種として、私たちは**力に服従**することが生存と壊滅の違いである条件の下で進化しました。脅かされると、私たちの本能は**最も強い者に味方**することを命じます——たとえその力が不当に振るわれていても。

イスラエルはこれを理解しています。ネタニヤフはこれを利用します。

大量の暴力を無敵のオーラ——核兵器、米国の保護、聖書の正当化——で取り囲むことで、イスラエルは**深い進化的反応**を引き起こします：

**強い者に抵抗するな。服従しろ。生き残れ。**

しかし、文明の前提そのものは**その本能を乗り越える**ことです。

文明は次のように言うために存在します：

> **いいえ。強い者は無罰で殺すことはできません。弱者は使い捨てではありません。**

指導者が国際法を支持する代わりにイスラエルの力に屈するたびに、彼らは**普遍的な原則よりも部族的な服従**を選んでいきます。

イスラエルは単に人々を殺しているわけではありません。それは**強者を抑制できる**という考えを殺しています。

## キャプテンの選択：恐怖よりも道徳

**スタートレック：ヴォイジャー**の初回エピソード「ケアテイカー」では、ジェインウェイ船長が恐ろしい選択に直面します：乗組員を安全に故郷に帰すか——脆弱なエイリアン種を壊滅から守るために唯一の帰還手段を破壊するか。

彼女は後者を選びます。彼女は**安全よりも原則**を選び、彼女の人々にすべてを犠牲にすることを知っています。

スターフリートのキャプテン——**カーク、ピカード、ジェインウェイ**——は常に道徳的勇気の象徴でした。何度も何度も、彼らは船、乗組員、さらには自分自身を危険にさらします——利益のためではなく、ナショナリズムのためでもなく、安全のためでもありません。

ただ**それが正しいことだから**です。

これが**イマヌエル・カントの命令**です：

> 「あなたが同時に普遍的な法則となることを望むことができるその原則に従ってのみ行動せよ。」

言い換えれば：**コストに関係なく、道徳的に正しいことをせよ。**

それが私たちの指導者たちができていないことです。

そしてそうすることで、彼らはジェノサイドを許すだけでなく、行動の指針としての道徳の概念そのものを放棄しています。

## 行動への呼びかけ：声を上げ、圧力をかけ、服従を拒否せよ

沈黙するな。ガザについて話し続けろ。世界に、それが「紛争」ではなく、**歴史の目の前で閉じ込められた人口の体系的絶滅**であることを思い出させ続けろ。

政府に圧力をかけ続けろ。彼らが**沈黙の裏を見抜いていること、エスカレーションやテロリズムではなく、イスラエルの核による恐喝**を本当に恐れていることを理解していることを知らせろ。

はい、サムソン・オブションは本物です。はい、ネタニヤフは不安定です。はい、世界の指導者たちは彼に立ち向かったら何が起こるかを恐れています。

しかし、私たちは**テロの脅威**——無法なグループからでも、無法な国家からでも——に価値観を放棄する義務はありません。

核の恐喝が一度成功すれば、それは再び成功します。そして今沈黙すれば、その沈黙を永遠に背負うことになります。

権力を持つ必要はありません。 - あなたの声を使え

- あなたの投票を使え

- あなたのプラットフォームを使え

- あなたの良心を使え

文明は壮大な瞬間に守られるのではありません。それは**真実を語る日常の選択**で守られます——それが危険なとき、特に危険なときに。

ジェノサイドは止めなければなりません。恐喝は暴かれなければなりません。そして世界は**何かを支持すること**が何を意味するかを思い出さなければなりません。

なぜなら、ガザは単なる戦場ではないからです。それは**道徳の鏡**であり、私たちが本当は何者なのか、そしてどんな存在になることを望んでいるのかを正確に示しています。